

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 4 年 1 2 月調査結果 - -

(平成 1 4 年 1 2 月 2 7 日)

調査期間：平成 1 4 年 1 2 月 1 6 日～ 2 0 日

調査対象：全国の 4 0 1 商工会議所が 2 6 0 4 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 6 製造業 6 3 7 卸売業 2 3 2
小売業 7 4 5 サービス業 6 0 4

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4、7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成14年12月調査結果のポイント】

景況は引き続き低水準で推移 一層強まる先行き不安感

12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（50.4）よりマイナス幅が0.1ポイント拡大して50.5となった。DI値は4月以降、低水準で一進一退を繰り返す不安定な動きをしており、11月にマイナス幅が小幅縮小の後、今月は再び若干拡大している。

業種別の業況DIを見ると、建設、製造、小売の3業種でマイナス幅が拡大したが、卸売、サービスでは縮小した。DI値の水準はマイナス50台と依然として低く、歳末商戦の低迷や競争激化、商品単価の下落、先行き不安感を訴える声が多数寄せられており、中小企業の足元の景気は厳しい状況となっている。

【建設業】では、「一戸建ての建売り住宅が伸びている」（木造建築工事）との声があるものの、「価格競争と客単価の下落が止まらない」（一般工事）、「受注出来ても採算割れが続く状況で、公共工事が今後さらに減少することへの備えもままならない」（一般工事）と、公共工事の減少、競争激化、単価下落を訴える声が多く、また、「業績の悪い企業は貸付金利が上がっている」（一般工事）、「セメント・生コンの価格が上昇傾向」（木造建築工事）と、融資環境の悪化や原材料コストの上昇を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「売上低調で、仕事があっても取引先の値引き要求が強く採算割れになる」（金属加工機械）、「自動車関連を除き業況厳しく採算悪化」（鉄素形材）、「同業者間の格差拡大」（家具）など、単価の下落や業種間、同業者間での企業間格差が広がっているとの声。また、「原油価格の上昇により塗料、合成樹脂原料などが値上がり」（計量器、測定器等）、「紙価格が上昇」（印刷）、「漁獲量の減少で仕入れ単価上昇、採算悪化」（水産食料品）など、業種によって仕入れコストの上昇により採算悪化との声が寄せられている。また、「輸出で国内のマイナスをカバーしているのが実態」（楽器製造）と、輸出依存の高まりを指摘するコメントも寄せられている。

【卸売業】では、「中国製品等の海外製品との競争激化で収益性悪化」（衣服・日用品）、「焼酎、発泡酒といった低価格商品が伸びている」（食料・飲料）、「売上前年割れで売上単価上昇を見込んであったがほとんど変わらず」（農畜産水産物）など、引き続き、競争激化と単価下落を訴える声が多く、また、「売上の伸びは期待薄なので、採算を上げることを重視」（各種商品）との声も寄せられている。

【小売業】では、「お歳暮品の売上伸び悩み」（百貨店）、「歳末大売出しも売上拡大に結びつかず苦戦」（商店街）と、歳末商戦の低調を訴える声が多く、また、「客単価、客数の前年割れが続く」（百貨店）、「景気低迷に加え、同業者間の競争激化のため業況悪化」（百貨店）、「客単価ダウンの歯止めが利かない」（各種商品）と、競争激化や客単価の下落傾向が続いているとの声が寄せられており、消費の低迷を訴えている。

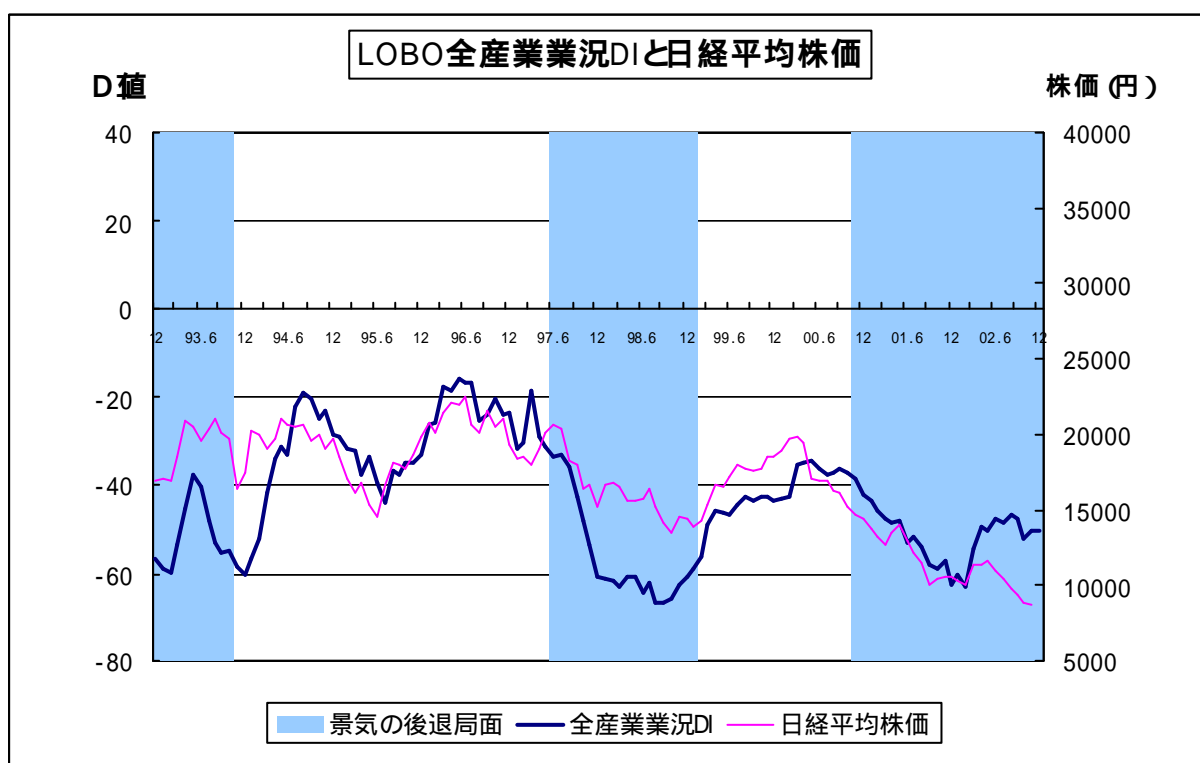
【サービス業】では、「忘年会シーズンだが客数の減少止まらず売上不振」（すし店）、「忘年会予約が減少し、かつ少人数化している」（一般飲食店）、「企業宴会は相変わらず弱い」（旅館）と、忘年会売上が低調との声が多く、また、「地場産業の悪化で来客数減少」（理容）、「宅配貨物は前年並みに推移するも、一般貨物は依然低調」（運輸）といった、個人、法人を問わず需要の減少を訴える声が寄せられている。

売上面では、前月水準より、卸売、小売でD I 値のマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上D I は前月水準よりマイナス幅が2.0ポイント拡大して44.5となり、2カ月振りにマイナス幅が拡大した。

採算面でも、卸売を除く4業種でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の採算D I は1.5ポイントマイナス幅が拡大して45.7と、業況および売上D I とともに、2カ月振りにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が44.9と、昨年同時期の先行き見通し(56.6)と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の減少や消費不振、商品単価の下落、仕入れコストの上昇に関するコメントが目立っている。



【業況についての判断】

12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（50.4）よりマイナス幅が0.1ポイント拡大して50.5となった。DI値は4月以降、低水準で一進一退を繰り返す不安定な動きをしており、11月にマイナス幅が小幅縮小の後、今月は再び若干拡大している。

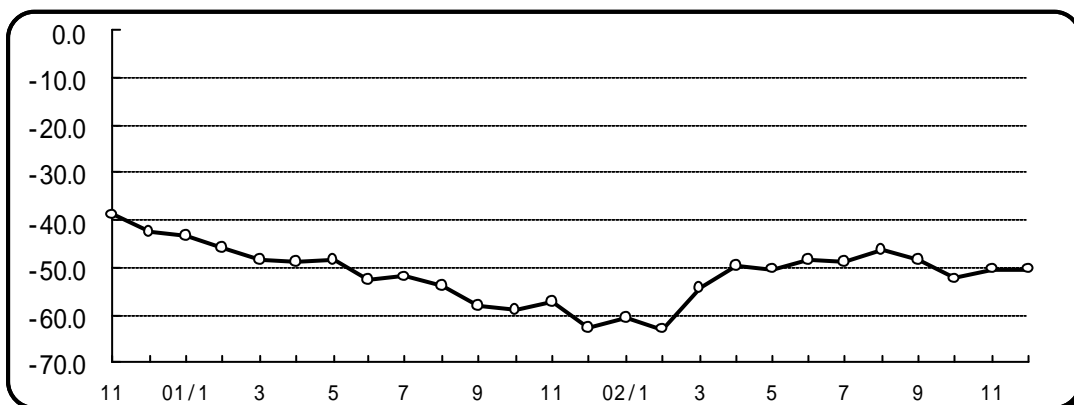
向こう3カ月（1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が44.9と、昨年同時期の先行き見通し（56.6）と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

業況DI（前年同月比）の推移

| | 14年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1～3月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|----------------|
| 全産業 | 48.9 | 46.4 | 48.1 | 52.3 | 50.4 | 50.5 | 44.9 (56.6) |
| 建設 | 57.1 | 55.7 | 56.8 | 63.7 | 62.9 | 63.0 | 55.5 (67.7) |
| 製造 | 47.6 | 44.8 | 49.2 | 53.7 | 46.7 | 47.7 | 46.3 (61.1) |
| 卸売 | 48.7 | 46.6 | 50.6 | 57.1 | 44.9 | 43.1 | 38.6 (58.9) |
| 小売 | 49.1 | 45.0 | 42.3 | 45.8 | 46.0 | 48.6 | 43.1 (51.7) |
| サービス | 44.5 | 43.4 | 47.2 | 49.4 | 53.7 | 50.4 | 40.9 (48.8) |

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年11月の先行き見通しDI<以下同じ>

業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

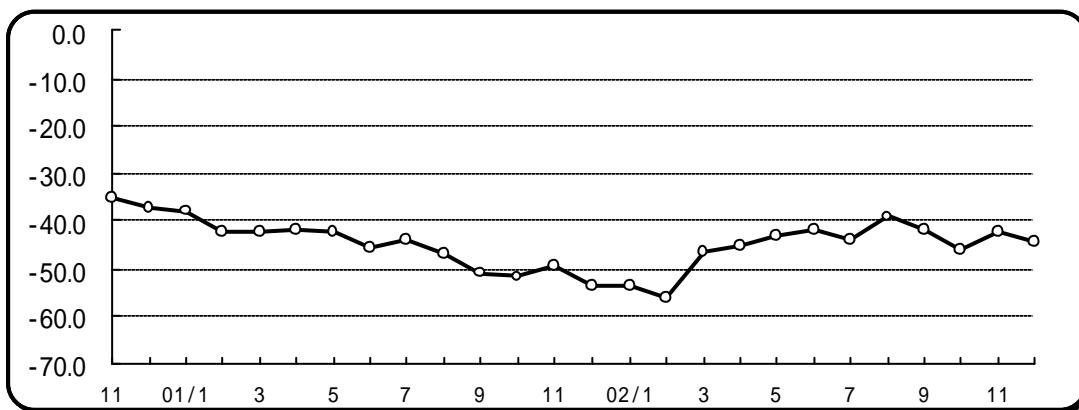
売上面では、前月水準より、卸売、小売でD I値のマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上D Iは前月水準よりマイナス幅が2.0ポイント拡大して44.5となり、2カ月振りにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が41.8と、昨年同時期の先行き見通し(50.8)に比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

| | 14年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1～3月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|----------------|
| 全産業 | 44.0 | 39.1 | 41.9 | 46.0 | 42.5 | 44.5 | 41.8 (50.8) |
| 建設 | 48.7 | 45.7 | 47.0 | 56.9 | 56.3 | 53.9 | 47.0 (61.7) |
| 製造 | 41.6 | 37.6 | 42.8 | 44.5 | 41.2 | 39.7 | 42.9 (53.7) |
| 卸売 | 45.5 | 39.8 | 48.1 | 55.8 | 37.1 | 38.3 | 41.6 (57.0) |
| 小売 | 45.3 | 39.4 | 40.2 | 39.8 | 35.8 | 45.9 | 40.2 (46.0) |
| サービス | 41.3 | 35.7 | 37.3 | 44.4 | 44.7 | 44.2 | 38.9 (43.2) |

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

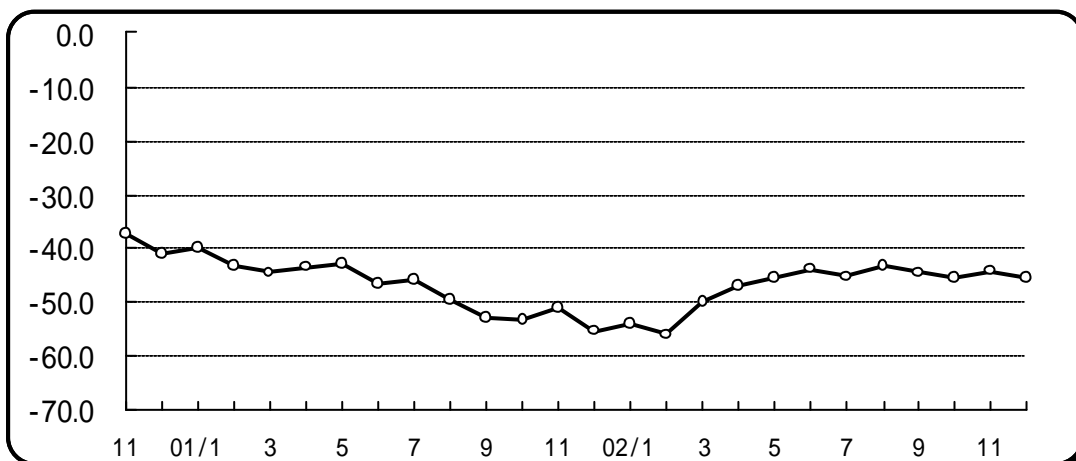
採算面でも、卸売を除く4業種でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の採算D Iは1.5ポイントマイナス幅が拡大して45.7と、業況および売上D Iとともに、2カ月振りにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が39.5で、昨年同時期の先行き見通し(51.0)と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

採算D I (前年同月比) の推移

| | 14年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1～3月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|----------------|
| 全産業 | 45.2 | 43.0 | 44.5 | 45.6 | 44.2 | 45.7 | 39.5 (51.0) |
| 建設 | 56.6 | 59.6 | 56.8 | 60.5 | 61.3 | 61.9 | 52.7 (62.1) |
| 製造 | 46.1 | 44.9 | 45.9 | 51.4 | 46.3 | 48.9 | 43.1 (56.7) |
| 卸売 | 43.1 | 40.4 | 48.1 | 50.3 | 37.1 | 35.3 | 34.3 (53.6) |
| 小売 | 42.0 | 36.3 | 35.5 | 29.5 | 33.9 | 37.1 | 31.4 (45.0) |
| サービス | 41.3 | 38.7 | 44.3 | 47.6 | 45.7 | 46.2 | 38.8 (42.6) |

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

| | 14年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1~3月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|----------------|
| 全産業 | 33.8 | 32.8 | 34.7 | 35.9 | 35.7 | 35.9 | 33.2 (40.2) |
| 建設 | 44.9 | 44.5 | 48.5 | 45.7 | 49.2 | 49.6 | 47.3 (49.8) |
| 製造 | 41.4 | 37.7 | 38.2 | 42.3 | 36.9 | 38.4 | 36.1 (48.5) |
| 卸売 | 29.6 | 24.8 | 26.7 | 29.9 | 31.9 | 27.6 | 29.4 (34.1) |
| 小売 | 24.9 | 25.3 | 28.9 | 26.8 | 27.5 | 27.9 | 25.1 (33.6) |
| サービス | 26.8 | 29.4 | 30.3 | 33.7 | 35.1 | 35.3 | 31.9 (34.1) |

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】卸売を除く4業種で悪化超感が強まったことから、全産業合計のD Iも2カ月振りに悪化超感が若干強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べ悪化超感が弱まり、全産業合計でも悪化超感弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

| | 14年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1~3月 |
|------|-----------|-----|-----|------|------|------|----------------|
| 全産業 | 0.1 | 0.4 | 0.7 | 1.7 | 2.6 | 3.1 | 4.3 (1.4) |
| 建設 | 0.0 | 1.8 | 3.4 | 6.4 | 6.0 | 3.2 | 3.6 (0.7) |
| 製造 | 7.3 | 5.9 | 8.6 | 12.3 | 12.2 | 15.7 | 13.5 (2.1) |
| 卸売 | 1.9 | 8.8 | 5.7 | 9.8 | 2.4 | 2.4 | 3.6 (10.7) |
| 小売 | 8.4 | 3.1 | 9.1 | 1.8 | 3.0 | 5.1 | 3.3 (7.2) |
| サービス | 3.0 | 3.8 | 3.3 | 4.8 | 7.0 | 6.0 | 4.8 (5.4) |

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設で下落超感が弱まり、小売、サービスで強まる。製造は上昇超感の強まりが見られる。卸売は横ばい。全産業合計では下落超感が弱まり、全産業合計で3カ月連続の上昇超過となった。

【先行き見通しD I】サービスを除く4業種で、昨年同時期に比べ下落超感弱まり、全産業合計でも下落超感弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

| | 14年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1～3月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|-----------------|
| 全産業 | 15.0 | 14.9 | 14.2 | 16.4 | 15.8 | 15.5 | 16.2 (19.3) |
| 建設 | 32.0 | 33.8 | 33.1 | 34.2 | 35.7 | 33.0 | 27.7 (35.9) |
| 製造 | 22.8 | 21.8 | 20.5 | 25.6 | 21.6 | 20.9 | 22.8 (32.4) |
| 卸売 | 14.9 | 16.8 | 16.3 | 11.0 | 15.0 | 16.2 | 16.4 (14.0) |
| 小売 | 4.3 | 4.9 | 3.8 | 7.0 | 4.2 | 4.2 | 8.3 (6.9) |
| サービス | 7.5 | 5.8 | 6.7 | 8.5 | 10.1 | 11.4 | 10.4 (9.4) |

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】建設、製造で過剰超感が弱まり、卸売、サービスで強まる。小売は横ばい。全産業合計では過剰超感が若干弱まる。

【先行き見通しD I】建設、製造で昨年同時期に比べ過剰超感が弱まり、卸売、小売、サービスで強まる。全産業合計では過剰超感が若干弱まる見通し。

【平成14年12月の景気キーワード】

先行き不安感

業種を問わず、景気の先行きへの不安感が一層強まっている。建設業からは、「建築業は年度末まで見通しが立たない」(鹿児島・木造建築工事)、製造業からは「売上高の先行き見通しの悪化、資金繰りの不安感を訴える企業が多い」(福井・金属加工機械)、「12月を迎えても受注はほとんどなく、先行き不安」(京都・和装、足袋製造)、「受注量減少により先行き見通し立たず、技術力を温存していた高齢者にも退職してもらわなければならない状況」(相生・船舶修理、製造)といった深刻な声が寄せられている。卸売、小売、サービス業からは、「景況の上向き材料乏しい中、消費者の購買力低下で、ますます先行き不安感が高まっている」(倉吉・農畜産水産物卸)、「先行き不安から消費者の財布の紐固く、売上単価が急落するデフレ傾向が止まらない」(銚子・商店街)、「成人式・結婚式の予約が減少し不安材料になっている」(美濃加茂・美容)といった声が寄せられている。

歳末商戦低調

歳末商戦について、低調を訴える声が多く、「年末用ギフトが減少しているので売上減」(四日市・食料品製造)、「例年に比べ高額商品の売上低調」(豊橋・百貨店)、「消費者の購買意欲が低く、バーゲンを待っているような状況」(高岡・商店街)、「企業のリストラ等により消費者の購買力が低下」(日立・商店街)といった声が寄せられている。また、「官公庁や多くの民間企業でボーナスが支給された週末、大勢の人たちで賑わったが、慎重に買い物する人が多かった」(静岡・商店街)との声や、「忘年会の時期だが、2次会も少人数化が進み、負担の軽いカラオケボックスに客が流れ、厳しい状況」(静岡・飲食店、バー等)、「昔はきれいにしてから新年をと、クリーニングに出したが、最近はそういう風潮がない」(姫路・洗濯)など、消費者の行動の変化を指摘するコメントも寄せられた。

倒産・廃業

年末にかけて、業種を問わず倒産・廃業についてのコメントがあがっており、「地元の業界代表企業の倒産によりマインドに悪影響が出ている」(帯広・家具製造)、「同業者が倒産、製造コストの悪化が著しい」(観音寺・輸送用機器)、「窯業界相変わらず悪く、1カ月間に商社3社が廃業、出荷停止し、まだ増える見込み」(伊万里・陶磁器、同関連)、「売掛金回収厳しく、資金ショートによる倒産も発生」(千葉・各種商品卸)、「不況型の廃業は、体力のあるうちに廃業を考える経営者の増加を招く」(恵那・各種商品卸)、「年内で廃業という店がかなり見られる」(北九州・食堂、レストラン)といった、深刻な状況を訴える声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

| 年 月 | 景気キーワード | | |
|--------|---------|-----------|--------|
| 14年10月 | 先行き不透明感 | 競争激化・単価下落 | |
| 11月 | 先行き不安感 | 競争激化・単価下落 | 資金繰り悪化 |
| 12月 | 先行き不安感 | 歳末商戦低調 | 倒産・廃業 |

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

| 産 業 | 概 況 |
|------|---|
| 建 設 | 業況D Iは2カ月振りにマイナス幅が拡大したが、売上D Iは2カ月連続で縮小し、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「一戸建ての建売り住宅が伸びている」(木造建築工事)との声があるものの、「価格競争と客単価の下落が止まらない」(一般工事)「受注出来ても採算割れが続く状況で、公共工事が今後さらに減少することへの備えもままならない」(一般工事)と、公共工事の減少、競争激化、単価下落を訴える声が多く、また、「業績の悪い企業は貸付金利が上がっている」(一般工事)「セメント・生コンの価格が上昇傾向」(木造建築工事)と、融資環境の悪化や原材料コストの上昇を訴える声が寄せられている。 |
| 製 造 | 業況・採算D Iは2月振りにマイナス幅が拡大したが、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「売上低調で、仕事があっても取引先の値引き要求が強く採算割れになる」(金属加工機械)「自動車関連を除き業況厳しく採算悪化」(鉄素形材)「同業者間の格差拡大」(家具)など、単価の下落や業種間、同業者間での企業間格差が広がっているとの声。また、「原油価格の上昇により塗料、合成樹脂原料などが値上がり」(計量器、測定器等)「紙価格が上昇」(印刷)「漁獲量の減少で仕入れ単価上昇、採算悪化」(水産食料品)など、業種によって仕入れコストの上昇により採算悪化との声が寄せられている。また、「輸出で国内のマイナスをカバーしているのが実態」(楽器製造)と、輸出依存の高まりを指摘するコメントも寄せられている。 |
| 卸 売 | 業況・採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小したが、売上D Iは2カ月振りにマイナス幅が拡大した。「中国製品等の海外製品との競争激化で収益性悪化」(衣服・日用品)「焼酎、発泡酒といった低価格商品が伸びている」(食料・飲料)「売上前年割れで売上単価上昇を見込んであったがほとんど変わらず」(農畜産水産物)など、引き続き、競争激化と単価下落を訴える声が多く、また、「売上の伸びは期待薄なので、採算を上げることを重視」(各種商品)との声も寄せられている。 |
| 小 売 | 業況D Iは3カ月連続、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、売上D Iは3カ月振りにマイナス幅が拡大した。お歳暮品の売上伸び悩み」(百貨店)「歳末大売出しも売上拡大に結びつかず苦戦」(商店街)と、歳末商戦の低調を訴える声が多く、また、「客単価、客数の前年割れが続く」(百貨店)「景気低迷に加え、同業者間の競争激化のため業況悪化」(百貨店)「客単価ダウンの歯止めが利かない」(各種商品)と、競争激化や客単価の下落傾向が続いているとの声が寄せられており、消費の低迷を訴えている。 |
| サービス | 業況・売上D Iは4カ月振りにマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月振りにマイナス幅が拡大した。「忘年会シーズンだが客数の減少止まらず売上不振」(すし店)「忘年会予約が減少し、かつ少人数化している」(一般飲食店)「企業宴会は相変わらず弱い」(旅館)と、忘年会売上が低調との声が多く、また、「地場産業の悪化で来客数減少」(理容)「宅配貨物は前年並みに推移するも、一般貨物は依然低調」(運輸)といった、個人、法人を問わず需要の減少を訴える声が寄せられている。 |

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況DI(前年同月比ベース)をみると、北海道、北陸信越、関東、四国、九州の5ブロックでマイナス幅が拡大し、全ブロック合計でも2カ月振りにマイナス幅が拡大した。

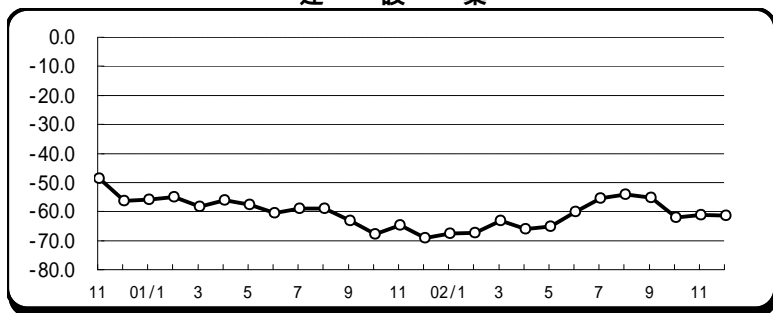
ブロック別の向こう3カ月(1月～3月)の業況の先行き見通しは、四国を除く8ブロックで、昨年同時期の先行き見通しと比べマイナス幅が縮小し、全ブロック合計でも縮小したが、依然マイナス幅は大きく、低い水準にある。

ブロック別・全産業業況DI(前年同月比)の推移

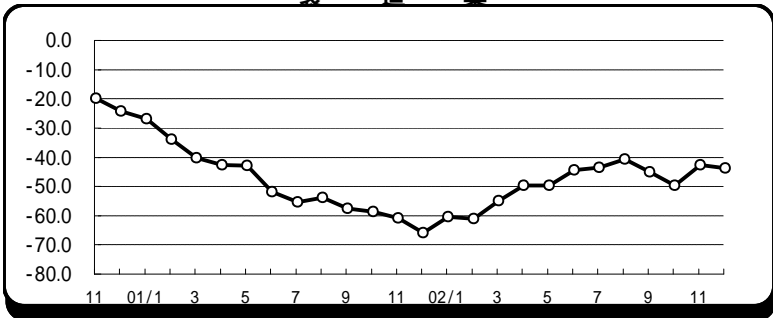
| | 14年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1～3月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|-----------------|
| 全 国 | 48.9 | 46.4 | 48.1 | 52.3 | 50.4 | 50.5 | 44.9 (56.6) |
| 北海道 | 43.3 | 45.4 | 40.3 | 41.3 | 50.8 | 51.1 | 49.6 (50.0) |
| 東 北 | 55.3 | 50.3 | 51.5 | 53.2 | 54.0 | 46.0 | 43.6 (64.8) |
| 北陸信越 | 40.1 | 38.5 | 44.3 | 47.0 | 45.4 | 46.5 | 44.6 (61.0) |
| 関 東 | 43.5 | 42.6 | 46.1 | 54.7 | 51.1 | 52.9 | 40.6 (49.8) |
| 東 海 | 52.8 | 43.2 | 49.7 | 53.0 | 51.2 | 49.7 | 46.2 (59.6) |
| 近 畿 | 52.9 | 55.1 | 52.6 | 58.0 | 53.3 | 52.2 | 49.4 (59.5) |
| 中 国 | 55.2 | 44.4 | 48.1 | 49.3 | 50.6 | 45.3 | 51.3 (66.9) |
| 四 国 | 58.7 | 56.3 | 55.4 | 60.6 | 55.0 | 62.6 | 49.5 (49.1) |
| 九 州 | 48.9 | 46.2 | 45.7 | 46.5 | 41.5 | 47.5 | 37.9 (57.1) |

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

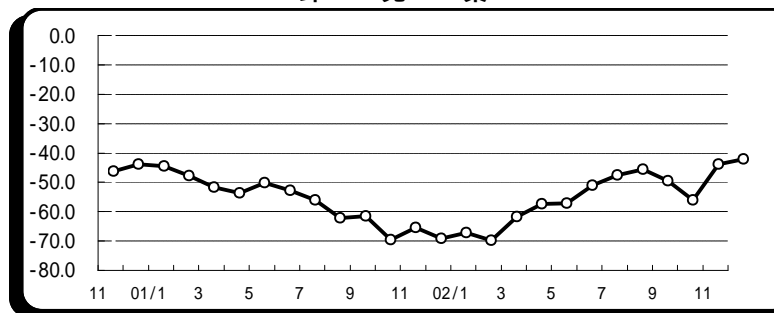
建設業



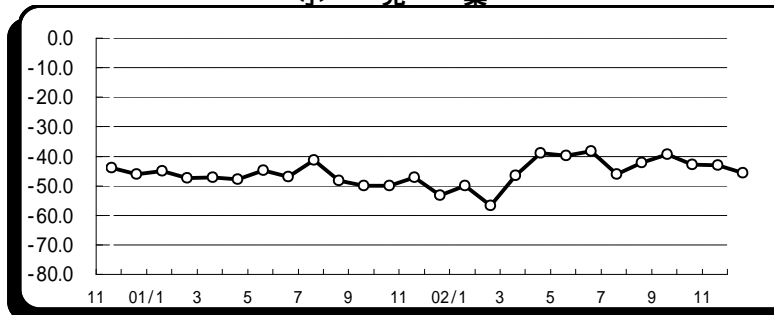
製造業



卸売業



小売業



サービス業

